

10・22 激突!!

面白さ自信あり
満足度自信あり



CHUSHINGURAGAIKEN
YOTSUYAKAIDAN

深作欣二監督作品
Team Okuyama

忠臣蔵外伝 四谷怪談

数百年に渡って日本人の心を引きつけて来た『忠臣蔵』、やはり数百年に渡って人々を震えあがらせ続けている『四谷怪談』。

一方が「義」と「組織」の論理で突き進む悲劇であるならば、

一方は「悪」の論理と「個」の激情が突き動かすドラマである。

実に正反対に見える二つの物語が語る事件は、

ポジとネガ、ユートピアと逆ユートピアと言える表裏一体のものなのだ。

そもそも江戸時代後期の狂言作家・鶴屋南北が書いた『東海道四谷怪談』では

主人公・民谷伊右衛門は赤穂浪士という設定。

江戸時代の芝居小屋では『忠臣蔵』と『四谷怪談』が二日間に渡って一幕づつ交互に上演され、

庶民に熱狂をもつて迎えられていた。

現代では切り離されて上演されている「表」と「裏」の物語が同じ舞台の上に現れたとき――

そこには「忠義の美談」「お岩怪談」以上のカタルシスを与える何かが存在したのだ。

元禄から文化・文政にかけて江戸町人を熱狂させた芝居『忠臣蔵』と『四谷怪談』。

二つの物語は、深作欣二監督の熱気溢れる演出によって映画『忠臣蔵外伝四谷怪談』として、

平成の今再び、舞台をスクリーンに変えて甦る。

時代は、江戸中期・元禄時代。

忠臣蔵外伝 四谷怪談

浪々の末、ようやく赤穂藩浅野家の家臣に取り立てられた民谷伊右衛門。

そんな伊右衛門を、そして赤穂藩を突然襲った悲劇……

再び浪人となり、琵琶の門付けに立つ伊右衛門の前に現れた一人の女――

『忠臣蔵外伝四谷怪談』が描くのは、従来のイメージを覆す全く新しい世界――愛と幻想。

伊右衛門と、彼を慕う湯女・お岩との愛を中心に、

討ち入りを願いながらも転落していく、伊右衛門をはじめとする浪士たちの青春、

吉良家家臣の孫娘・お梅の伊右衛門への横恋慕、大石内蔵助と伊右衛門の人間ドラマが、

大石内蔵助ら四十七士の吉良邸討ち入りまでを背景に、

一つに融合して、息もつかせぬ壮大なストーリーが展開する。

この奇抜なストーリーと、深作監督の独想的なイメージ・シジョンを最大限に生かすため
技術面ではコンピュータグラフィックスなど現代最先端の方法を駆使。

また、民谷伊右衛門に佐藤浩市、お岩に高岡早紀、そして大石内蔵助に津川雅彦という斬新なキャストを起用し、
巨匠・深作欣二がおくる、常識をくつがえすエンターテインメント大作『忠臣蔵外伝四谷怪談』。

日本映画史上、稀にみる傑作が今秋その全貌をあらわす！

CHUSHINGURAGAI DEN
YOTSUYAKAIDAN

松竹創業100年記念作品



【キャスト】

民谷伊右衛門 佐藤浩市

お岩 高岡早紀

お梅 荻野目慶子

伊藤喜兵衛 石橋蓮司

お横 渡辺えり子

横川勘平 火野正平

宅悦 六平直政

おかる 新八 菊池麻衣子

堀部弥兵衛 下元 勉

矢頭長助 奥村公延

大石主税 真矢 武

岡野金右衛門 青山裕一

高田郡兵衛 谷口高史

矢頭右衛門七 柴田善行

浅野内匠頭 真田広之

吉良上野介 田村高廣

浮橋太夫 (特出) 名取裕子

民谷伊織 近藤正臣

清水一学 蟹江敬三

堀部安兵衛 渡瀬恒彦

大石内蔵助 津川雅彦

【スタッフ】

製作 櫻井洋三

脚本 古田 求

監督 深作欣二

音楽 和田 薫

撮影 石原 興

照明 中島利男

美術 西岡善信

製作協力 松竹株式会社

配給 京都映画株式会社

松竹株式会社

10・22 激突!!